

Prediction of 6-thioguanine nucleotides levels in Japanese patients with inflammatory bowel diseases during long-term thiopurine administration

河内, 修司

<https://hdl.handle.net/2324/1544041>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名： 河内 修司

論 文 名： Prediction of 6-thioguanine nucleotides levels in Japanese patients with inflammatory bowel diseases during long-term thiopurine administration
(チオプリン製剤で長期治療中の日本人炎症性腸疾患患者における 6-チオグアニンヌクレオチド濃度の予測因子)

区 分： 乙

論 文 内 容 の 要 旨

背景：チオプリン製剤投与中の炎症性腸疾患患者では、6-チオグアニンヌクレオチド (6-TGN) 濃度を測定することが望ましい。

目的:本研究の目的は、チオプリン製剤を投与中の日本人炎症性腸疾患患者において、6-TGN 濃度を予測し得るパラメーターを明らかにすること。

対象と方法：アザチオプリンもしくは6-メルカプトプリンを90日以上投与された炎症性腸疾患患者54例(潰瘍性大腸炎32例、クローン病22例)において6-TGN濃度を測定した。血中パラメーターと6-TGN濃度間の相関関係を調査した。治療域6-TGN濃度とされている235 pmol/8×10⁸ RBCs未満もしくは以上を判断するために、臨床的・血液学的因子を評価した。

結果：6-TGN濃度はチオプリン製剤投与前後における平均赤血球容積(MCV)(R=0.423, p=0.001)とリンパ球数(R=-0.280, p=0.04)の変化量と明らかに相関した。多変量解析では、MCVの変化量(OR:1.22, 95%CI:1.07-1.40)とヘモグロビン値の変化量(OR:0.59, 95%CI:0.35-0.99)が6-TGN濃度を予測する因子であることが示された。治療域6-TGN濃度である235 pmol/8×10⁸ RBCs以上であることを予測する最も適切なMCV変化量のcut-off値はMCV3.5f1以上の上昇であった。

結論：チオプリン製剤投与中の炎症性腸疾患患者において、MCVの変化量は6-TGN濃度を予測するのに有用であると思われた。